

# とらのもん

新年のご挨拶(院長)

新年のご挨拶(分院長)



上野動物園フラミンゴ

基本理念：医学への精進と貢献、病者への献身と奉仕を旨とし  
その時代時代になしうる最良の医療を提供すること

## 公開講座のお知らせ

『治験：新しい薬を使うためのアプローチ

- より安全により効果的に - 』

治験事務局長・薬剤部長 林 昌洋

治験コーディネーター室室長・日本臨床薬理学認定CRC 鈴木 克子

日時：1月12日(土) 14:00 15:30

場所：本院 本館3階 講堂

(入場料無料)

今回は第2週目の開催となります。  
諸般の事情により、変更・延期・中止になる場合がございます。  
お電話・ホームページ等で開催の有無をご確認下さい。



**明けましておめでとうございます。  
本年もよろしく願いたします。**

今年、虎の門病院本院は創立50周年を迎えます。虎の門病院は、後に文化勲章を受けられた沖中重雄先生（第2代院長）の構想に沿って、昭和33年（1958年）に虎ノ門の地に国家公務員共済組合連合会病院の中核病院として開院しました。開院時より、高度に分化した専門診療を行い、多くの諸先輩の努力により医療界、医学界で高く評価される存在となりました。昭和58年（1983年）に新館を増築し今日に至っていますが、患者の皆さんからも高い評価を得ることができる病院になれたことは、職員一同の喜びであり、誇りであります。

次の50年に向けて、初代大槻菊男院長の言葉から頂いた基本理念「**医学への精進と貢献、病者への献身と奉仕を旨とし、その時代時代になしうる最良の医療を提供すること**」に立ち返り、決意を新たに努力したいと思えます。

昨年は新コンピュータシステムの活用も進み、レントゲンフィルムを持ち歩かないフィルムレス運動を進めました。外来での皆さんの検査等がいくらか簡便になったと思えます。また、会計や予約の場所も多少様変わりしたと思えますが、ご不便はございませんか。新設した外来化学療法室も軌道に乗り好評を頂いています。入院治療の効率的な運用が政策的にも進められており、外来化学療法室も入院ではなく外来で治療が受けられるようにする流れの一環です。また今年から、医療制度改革の一つとして、入院医療費の一部が包括評価になるDPC病院に、本院、分院ともなる予定です。入院、外来の流れに多少の変化を生ずると思えますが、ご理解を頂きたいと思えます。外来化学療法室の誕生によっても治療室などの混雑は緩和されず、スペース、アメニティの点では相変わらずご迷惑をお掛けしていますが、ご容赦ください。

昨年は幸い大きな医療事故はありませんでしたが、感染症の発生で病棟を一部閉鎖せざるを得ない事態がありました。感染コントロールチームが定期的に巡回し、コンピュータシステ

ムで情報を共有していますが、抵抗力の弱まっているご病気の方の場合は、このような感染症を完全に防ぐことはできません。医療の不確実性については改めて申すまでもありませんが、医療に100%の安全、100%の成功はありません。病院スタッフは医療安全を高めるためになお一層の努力をいたしますが、皆さんのご協力を必要とする場合も多々あります。皆さんと一緒に医療安全向上に取り組めることを願っています。身の回りでお気づきの点があれば何なりとご指摘いただければ幸いです。

人間ドックを実施している健康管理センターが、地下鉄虎ノ門駅傍に現在建築中のビルへ、5月頃に移る予定です。新しい健康管理センターには、がん検診に重要なPET-CTなども設置され、今まで以上に多くのオプション検診が可能になります。現在は1000名/月ほどしかいない検診定員を大幅に増やし、皆さんのご希望の日程にお応えすることが出来るようになると思えます。新しく広くゆったりとした健康管理センターを是非ご利用ください。また、当院と新健康管理センターを一体運営してまいりますので、PETやMRI、CTなどの検査を、新健康管理センターでお受けいただく場合もあります。よろしくご協力をお願いいたします。

今年は看護体制の向上を目指して看護師が大幅に増員されます。その他の職種もスタッフを多く採用しました。スタッフの数を増やすことで虎の門病院の診療体制は一層充実したものになると思えます。本年も職員は心を一つにして安全かつ満足度の高い医療を目指します。皆さんのご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。



## 新年明けましておめでとうございます。 本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

昨年は、特に環境問題がクローズアップされ私たちの身近な環境にも温暖化を感じさせる出来事が数多く起こった一年でした。宇宙飛行士の毛利衛さんが、「宇宙から地球を見ると国と国ではなく、一つの国として見える。なぜならどこかで火事があるとその煙が気流に乗って地球を一周していることがとてもよく見えてくる。」と言われました。この言葉は、これからは国と国ではなく一つの地球の未来を考えよう、というメッセージではないかと感じました。医療の現場も混沌としておりますが、10年20年後にみなさまから、頼れる病院として愛される存在でありますよう努めてまいります。

分院は、平成13年に外来棟・入院病棟の改築・増築があり現在の姿になりました。梶が谷駅前も再開発され、駅前からの遊歩道には、ボランティアの方々のお蔭で季節ごとに可憐で美しい花々を見ながら病院まで来られるようになりました。また、宮崎台駅から分院まで東急バスが運行されてから、駅から歩かずに通院していただくことができるようになり、以前より患者さんのご負担が幾らかでも和らいだのではないのでしょうか。

冬の分院の庭は、夏にはない落ち着きと重厚感があり暖かい日差しが降り注ぐ日には、絶好のお散歩日よりとなります。この庭の手入れは施設担当をはじめとして大勢のスタッフで支えています。

診療科においては、外科（消化器系・肝臓系）と整形外科は内科系と連携をとりながら診察しています。今年度はさらに緊密な診療連携をしていきます。リハビリテーション科は、PT（理学療法士）、OT（作業療法士）、ST（言語聴覚士）の総合的なリハビリで患者さんの機能回復に努めています。また、首都圏で有数の透析数を誇る腎センターをはじめとして、肝臓センターでも慢性肝炎・肝臓治療について全国へその治療法を発信しています。

内科総合診療科では、今クローズアップされているメタリックシンドローム症候群の診察（内分泌代謝）、胃炎・胃潰瘍の原因の一つであるピロリ菌の除菌の診察（消化器）、無呼吸睡眠の診察（呼吸器）を行っています。精神科は薬剤による精神不安定時のコントロールなども診察しています。



また、今年から、患者さんからのお問い合わせやご質問にすばやくお答えできるよう、病診連携部のスタッフの充実を図ります。

地元医師会開催の勉強会などにも積極的に参加し、より密接な地元病院になれるよう今年も精進していきたいと考えています。昨年度、当院呼吸器科の川畑医師が地元医師会の勉強会でカンファランスを行わせていただきました。また11月にも肝臓病の講演を行わせていただきました。これを機に、地元開業医の先生方からのご紹介を数多くいただいております。

今年度は、紹介状への迅速かつ正確な返信と地元開業医の先生方からの患者さん受け入れ体制の充実のため、病診連携部をさらに充実してまいります。

今年も全職員で日々研鑽して参りますので宜しくお願いいたします。

### 〈分院診療科一覧〉

|                            |            |
|----------------------------|------------|
| 内科総合診療科<br>(消化器・内分泌代謝・呼吸器) | 外科         |
| 肝臓科                        | 整形外科       |
| 神経内科                       | リハビリテーション科 |
| 腎センター                      | 泌尿器科       |
| 精神科                        | 歯科         |
| 小児科                        | 麻酔科        |

# 治験：新しい薬を使うためのアプローチ より安全により効果的に

## 【 治験について 】

新しい薬が開発され発売されるまでには、どのような過程があるかご存知でしょうか？

まず初めに、「薬」になる可能性のあるものを探します。例えば、植物・海洋生物・菌といった自然界に存在する物質や、化学物質などが候補になります。

次に、これらの物質を使って試験管の中での実験を行います。動物での実験も行います。こうした実験を繰り返した結果から、病気に効果があって、なおかつ人に使用しても安全と予測されるものが「薬の候補」として残ります。

しかし動物実験だけでは、「薬」として発売することができません。動物には良く効くのには効果が無かったり、動物には問題なく使用できて人にも副作用を引き起こすことがあるからです。

そこで、人に対して有効かどうか、安全かどうかを検討するために、健康な人や患者さんを対象に「薬の候補」となった物質の試験をします。この試験が「治験」です。得られた結果を国が審査し、承認されたものだけが「薬」となります。

## 【 治験に期待されること 】

いざと言うとき、「薬」はとても頼りになるものです。

頭痛や腰痛などの症状緩和はもちろん、高血圧や胃潰瘍などの病気の治療、あるいは細菌によって引き起こされる肺炎や膀胱炎も、適切な薬を使用して治療することができます。

より効き目の良い薬、より副作用の少ない薬が「新薬」として開発されることに加えて、従来は有効な治療薬が無かった癌や白血病、ウイルス肝炎などの病気についても画期的な新薬が入手できるようになってきています。

新薬を見いだして開発できる実力のある製薬企業は日本国内にもありますが、米国やヨーロッパにも優秀な企業があり、研究所や開発費などの規模の面では日本の大手企業を上回る程です。このため海外主導で開発が進むと、海外の先進国では日常診療で使用可能になった有望な新薬が、日本では使えないといった現実も発生してきています。こうした有望な新薬の開発

### 林 昌洋

治験センター 治験事務局長  
薬剤部長



### 鈴木 克子

治験センター  
治験コーディネーター室室長  
日本臨床薬理学会認定CRC



が欧米先進国と比較して日本で遅れていることを指す言葉として「ドラックラグ(日常使うタイムラグのお薬版です。)」という言葉が出来てしまった位なので、より良い治療を目指している私たちにとっても皆さんにとっても残念なことです。

厚生労働省では、国をあげてドラックラグの解消に対策を立てています。その一つに、国民の健康のために新薬の開発に携わる力のある高次医療機関を「治験の中核病院・拠点病院」として選定して、世界的に有望視される新薬の開発をスピードアップさせる施策があります。虎の門病院もこの治験拠点病院に選ばれました。

当院が目指す最善の医療の選択肢の一つとして、皆様に治験についてもご提案することがあるかと思われます。そうした意味からも、今回は治験の現状や治験の実際について、ご紹介したいと考えています。

## 2007年度虎の門病院治験件数 (11月末日現在)

|          |    | 件数  | 症例数  |
|----------|----|-----|------|
| 新規受託件数   | 本院 | 10件 | 82例  |
|          | 分院 | 6件  | 43例  |
| 現在実施中の治験 |    | 32件 | 289例 |

## 治験の対象となる疾患

肝細胞癌、C型慢性肝炎・代償性肝硬変、B型慢性肝炎、肝性浮腫、伝音障害者および片側聾、原発性副甲状腺機能亢進症、先端巨大症・下垂体性巨人症、多発性嚢胞腎、慢性呼吸器病変の二次感染、成長ホルモン分泌不全性低身長・子宮内発育不全、造血器疾患、再生不良性貧血、高コレステロール血症

## 【 治験コーディネーター（CRC）】

治験コーディネーターとは、治験がスムーズに行われるように、患者さんと医師との間はもちろん、院内のスタッフ、製薬会社などの治験依頼者との架け橋の役割をするスタッフです。当院では、看護師4名 薬剤師1名 臨床検査技師4名が、主に次の業務を行っています。

### 【インフォームド・コンセントの補助】

治験の基準に合う方に、医師が治験について説明をします。その後、CRCから治験期間、検査項目、費用などについて補足説明をします。治験の内容を十分理解した上で、患者さんご自身の意思で参加・不参加を決めていただくことが大切です。

### 【患者さんと面談・診察への同席】

治験薬の服用状況や副作用、併用薬剤などについて面談を行います。また、ご相談等への対応や診察への同席もします。

### 【スケジュール管理】

治験では、通常診療では行わない検査が必要になったり、検査を行う日時が指定される場合があります。こうした検査が患者さんの負担にならないようスケジュールを調整します。必要な検査に欠落があるとせっかくのデータが生かされないので、慎重に管理しています。

### 【服薬指導・併用薬剤のチェック】

治験中には服用してはいけない薬（併用禁止薬）があり、薬剤部と協力して確認しています。患者さんには「治験参加カード」をお渡しし、他院や薬局に行く時に治験参加中であることが分かるようにしています。

### 【治験データの収集と書類等の管理】

治験のために行った検査結果などは「症例報告書」に記入され、製薬会社に提出されます。治験依頼者は病院で治験が正しく行われていたか、症例報告書とカルテに矛盾がないかを調べる（直接閲覧）ために、資格を持った関係者（治験依頼者・医薬品医療機器総合機構など）が患者さんのカルテを確認します。CRCは直接閲覧がスムーズに進むよう準備します。患者さんのお名前や住所などプライバシーにかかわることが他人に漏れることはありません。

### 【関連部署との調整】

治験には色々な決まりごとがあります。治験を行うためには、医師や薬剤部、看護部、臨床検査部、放射線部、事務部門など様々な部署の協力が必要です。CRCは、治験の準備段階から治験終了まで、それぞれの部署との連絡を取り、治験がスムーズに進むように調整しています。

## 【 治験の実施の流れ 】

患者さんには見えにくい部分ですが、治験の実施までには、様々なチェック機構や万全を期した準備が行われます。その概略を以下にまとめました。

### 『 治験の実施のための手続き 』

↓ 治験依頼者（製薬企業など）からの申請で、院内の治験窓口担当者との手続きを開始します。

### 『 研究委員会 / 治験審査委員会（IRB） 』

↓ 当院でこの治験を実施することについて、患者さんの人権や安全性及び科学性に問題がないかを審査します。

### 『 治験の実施に関する契約 』

↓ IRBが承認し、病院長の了承が得られると、治験依頼者と治験の実施に関する契約を結びます。

### 『 スタートアップミーティング 』

↓ 治験の実施が決定すると、治験コーディネーター（以下CRC）が中心となり治験責任医師・分担医師（以下医師）や院内の関連部署、治験依頼者の中で治験が円滑に進むよう調整を行います。準備が整った段階で、医師・薬剤部・看護部・臨床検査部・放射線部など関連する部署の担当者への説明会（スタートアップミーティング）を行います。

### 『 治験の開始 』

↓ 治験の候補（治験の基準に合致している）の患者さんに、医師とCRCが説明文書を用いて治験の説明を行い、治験への参加に同意が得られたら治験を開始します。

### 『 症例報告書の作成・提出 』

↓ 医師は、治験のために行った検査や診察の結果などを記入した「症例報告書」を作成し治験依頼者に提出します。

### 『 直接閲覧（モニタリング）・監査の実施 』

↓ 治験を実施している間、治験依頼者は必要に応じて病院で治験が正しく行われているか、症例報告書とカルテに矛盾がないかを調べます。

### 『 治験の終了 』

↓ 治験責任医師は治験が終了したことをIRBに報告します。

治験について、もっと知りたい、聞いて確かめたいと感じることがありましたら、いつでもお尋ねください。



# 健康こぼれ話（1月）

煙草の話（1） - 健やかで豊かな生活のために -

医療安全アドバイザー

シミュレーション・ラボセンター長

中西 成元

はじめに かつて日本専売公社のコピーに「今日も元気だ、たばこがうまい！」というものがありました。国が行っていた現業のコピーでしたが、素晴らしいものでした。私企業もたくさんのコピーを作ってきてはいますが、私の覚えているものの中で5本の指に入ります。

このタバコのコピーは、働く人のカッコ良さや、ホッとした時の一服の煙草の効用を想起させ、煙草がどれほど美味しいものかということ強く訴えるものでした。煙草を吸う人は、疲れた頭をスッキリさせる効果があるとか、人とのコミュニケーションに大切な手段だとか、果ては健康に悪いことは分かっているが太く細く生きられればいいとか、自業自得であるからいいのだとか言います。

歴史的には確かに煙草は多くの効用を持ってきました。神との交信の道具であったり、人の心を開くことができたり、仲直りのしるしに「平和のたばこ」があったりと、大いに役立ってきたのです。近世では煙草は「百薬の長」とされたこともあり、世界中でなくてはならないものとなりました。たばこ産業は一部の国にも莫大な富をもたらしました。現在の日本では民営化されましたが、未だに多額の税金が国に収められています。

煙草は酒、茶、コーヒー等と並び欠くことのできない嗜好品とされており、文化であると言われていています。文化というのはなくても生きていけるものですが、あれば快適で、人生に彩りを添え、心地よくしてくれるものです。日本では文化というと芸術、伝統芸能、ゲームなどを指すことが多いようですが、スポーツも含めて日常生活から離れた余興すべてが「文化」なのです。

しかし本当に、煙草は文化なのでしょう。煙草の真実を皆さんは あなたはご存知でしょうか。

今日、日本で煙草のことを語り合うとき、煙草を吸う人と吸わない人が冷静に話し合うことは中々出来ないような状況にあります。互いに感情が先走り、問題の核心に迫らないまま、鬱憤を募らせてしまうことが多いようです。

煙草に関わるさまざまな問題は、個人レベルで解決できるものではありません。煙草のことをよく理解し、共通の基盤に立った上で話し合う必要があります。まずは煙草を知ることから始めましょう。健やかで豊かな生活の最高の担い手は貴方自身です。

「人も見ぬ春や鏡の裏の梅」

芭蕉



梅の花芽

ヴェネツィアのサン・マルコ広場から、ビザンチン形式の大聖堂を見上げると、バルコニーには人びとが群がり、4頭の馬が並んでいるのが見える。実はこれは彫像のコピーなので、本物はハトの糞害を避けるため、大聖堂内に飾られているのだ。

ちょうど休日のせい寺院には旅行者たちが押しかけ、1時間以上も前から、100メートルの長蛇の列で開場を待っていた。

やっと入場する番になった。だが、すぐに教会内には入らず、本堂前の小広間(ナルテックス)から狭い階段を押し合いへし合いして上る。3ユーロ(500円)を払って2階の回廊に入れば、やっと金箔も美しい有名な青銅の馬にお目にかかることができる。

この馬は数奇な運命をたどった。はじめ紀元前4、3世紀の頃、ギリシアのコリントで鑄造されたものらしい。その後ローマのトラヤヌス帝の凱旋門に飾られ、東ローマ帝国になり首都がコンスタンチノーブルに移ると、何百年かはそこのヒポドローム(競馬場)で飾られていた。さらに1204年の第4次十字軍という略奪戦争の戦利品として、ヴェネツィアへと運ばれたのである。

ナポレオンは、1797年にオーストリー戦の勝利のあと、この馬をパリのルーブル宮側のカールセル凱旋門に飾ろうとした。だが、大きすぎたので放置されていた。彼が亡くなった後1815年になって、やっと元のサン・マルコ寺院に返還されることになった。

私が学生のときは戦争中で、西洋史どころではなかった。また高校大学も理系で歴史とは無縁だった。ヴェネツィアで最初にこの馬を見たとき、有名な彫刻だそうだという単純な感想だけだった。やがてパリやイスタンブールに旅行して、青銅馬があった場所にいざ自分が立ってみると、歴史が点から線になったようで、深い感動を覚えたのである。

今回あらためて彫刻の馬をゆっくり眺めた。骨董品や美術品などは、よいものを何度か見ると鑑賞能力や眼力が養われるものだ。今回、本物の彫刻とバルコニーで雨に打たれハトの糞害にさらされるコピーとを見比べた

が、だれにだって本物の芸術のよさが分かってくるだろうと思った。

まず本物の4頭にはすべてに躍動感がある。筋肉の形や盛り上がりが解剖学的に正確だし、静脈の膨らみも納得できる。一番感動したのは、あたかもわれわれに物問いたげな馬の表情だった。これはまるで魔法にかけられた王子様だ。

本来馬や犬の気持ちはある程度まで分かるものだ。だが、それにも限度もあって、私の精神科医としての技能を最大限に発揮して彼らと意思疎通してみようと試してみたこともあったが、完全には無理なのであった。むしろこの青銅馬のほうが、生きた動物より心が通ずるようだった。

コピーは「そっくりさん」だけれど、どこか形にしまりがなく心も通わない。私は青銅の王子様たちとゆっくり問答することを選んだ。

その製作はたぶん近代なのである。動物を同等の伴侶でなく、人間の下で使役される階層と考えるキリスト教的思想のもとで作られたのだろう。だから形を似せることが出来ても、その神韻までを移すことは出来なかったのだろう。

4頭馬は馬車付きのことが多い。その典型がベルリン・ブランデンブルグ門上の4頭馬だ。これは軍用道路を最速で疾走する乗り物として、体制の権力を象徴している。モスクワの博覧会場に飾られている世界最初の宇宙船ロケットも、そんな目的のものだ。ヴェネツィアの青銅馬はそもそも馬車付きでなかったのか、それなら何のために鑄造されたのか。さて考えてはみたものの、私には分からなかった。



サン・マルコ寺院 青銅の馬

## 虎の門病院からのご案内

初診時より効果的な診察ができますよう、可能でしたら他病院からの紹介状をご持参ください。紹介状をお持ちにならない場合は初診時選定療養費(本院5,250円、分院3,150円)をお支払いいただきます。

| 本院診療受付時間(初診) |   |
|--------------|---|
| 内科           | 8:30 - 10:30                                  |
| 小児科          | 8:30 - 11:00                                  |
| 皮膚科          | 8:30 - 10:30                                  |
| 麻酔科          | 13:00 - 14:30(水以外)                            |
| 外科           | 8:30 - 11:00                                  |
| 脳外科          | 月曜～金曜 8:30 - 11:00<br>月(第2・4)・金 13:00 - 14:30 |
| 整形外科         | 8:30 - 10:30                                  |
| 形成外科         | 月・火・木・金 8:30 - 10:30                          |
| 産婦人科         | 8:30 - 11:00                                  |
| 泌尿器科         | 8:30 - 10:30                                  |
| 耳鼻咽喉科        | 8:30 - 10:30                                  |
| 眼科           | 8:30 - 10:30                                  |
| 歯科           | 8:30 - 10:30                                  |

| 分院診療受付時間(初診)      |               |                    |
|-------------------|---------------|--------------------|
|                   | 午前 8:30-10:30 | 午後 1:00-3:30       |
| 内科総合診療科<br>(一般内科) |               |                    |
| 内分泌代謝科            | 水・木・金         | ×                  |
| 呼吸器科              | 金             | 火                  |
| 肝臓科               | 週による          | 週による               |
| 消化器科              | ×             | 水                  |
| 神経内科              | ×             | 月                  |
| 腎センター(内科)         | 月・火・水・木       | 月(第1×)・火           |
| 腎センター(外科)         | 月・火・金         | ×                  |
| 精神科               | ×             | 月・火・水・木            |
| 循環器センター           | ×             | 水(第1)              |
| 外科                | 火・木(第2・4)     | 火・水・木・金            |
| 整形外科              | 月は午前10時～      | ×                  |
| 皮膚科               | ×             | 火(第2・4)<br>午後1時～2時 |
| 小児科               | ×             | 月・水・金              |
| 泌尿器科              | ×             | 木                  |
| 歯科                |               |                    |

### 虎の門病院 本院

〒105-8470 東京都港区虎ノ門2-2-2  
TEL 03-3588-1111 (代)  
地下鉄銀座線虎ノ門駅3番出口 徒歩5分  
車でご来院の方：有料駐車場があります  
(30分：300円 患者さん割引あり)

### 虎の門病院 分院

〒213-8587 川崎市高津区梶ヶ谷1-3-1  
TEL 044-877-5111 (代)  
田園都市線梶が谷駅より徒歩15分  
宮崎台駅よりバス5分

### さいたま診療所

〒330-0081 さいたま市中央区新都心2番1  
さいたま新都心合同庁舎2号館1階  
TEL 048-601-1347  
JRさいたま新都心駅 徒歩5分  
JR埼京線 北与野駅 徒歩8分  
(診療科) 内科・精神科・歯科  
平日AM 9:00～11:30 PM 1:30～4:00

予告なく変更することがありますので、診療前に電話等で各科の診療の有無を確認の上、ご来院ください。

### 人間ドック・脳ドックに関するお問い合わせ

虎の門病院 健康管理センター  
直通) 03-3560-7777  
平日8:30 から 16:00まで

### 当院でセカンドオピニオンの提供を受けたい方へ

他の病院におかかりの患者さんで、ご自分の病状や治療方針について現在おかかりの医師以外の意見をお求めの方へ対し、当院各科専門医(部長・医長クラス)による特別相談をお受けしております。(予約制)

(料金) 60分：31,500円  
延長される際には、30分毎：21,000円  
医療連携部 (直通) 03-3560-7823